



「長生きオルガン」の伴奏に合わせて歌う児童

120年のオルガン 温かく

宇和島 旧毛利家コンサート

大学生伴奏 児童合唱

宇和島市指定文化財「村の古民家に歌声を響かせる」の旧庄屋毛利家住宅（同市三間町是能）で7日、七夕コンサートがあった。保育士を自指す松山東雲女子大の学生7人が初めて参加し、120年の歴史がある「長生きオルガン」の伴奏で地元の成妙小の児童と共演。農紙芝居も披露した。

長生きオルガンは1904（明治37）年製造の足踏み式で、成妙小の卒業生が名付け親。同大3年の古川真凧さん（20）の伴奏に合わせて、児童らは「たなばたさま」や「さんぽ」など4曲を合唱し、柔らかな音色と元気な歌声で和やかな雰囲気包まれた。

古川さんは「ピアノと感覚が違って難しかったが、歴史を感じる温かい音に感動した」

（木俣寛太）